

	コード	名 称	区分	コード	名 称	
事業名	564	伊賀米等生産振興対策事業	会計	01	一般会計	
			款	06	農林業費	
			項	01	農業費	
基本 施策	43	伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	目	03	農業振興費	
			細目	293	伊賀米等生産振興対策事業	
行革大綱の重点事項番号			細々目	51	伊賀米生産振興経費	
担当部課	コード	191200	担当者 氏 名	小林康志	連絡先	43 - 2302 (内線) 335
	名 称	産業建設部農林振興課				

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀米生産農家、関係事業者及び地域の消費者	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の主力農産物である伊賀米の生産基盤が保持できる。伊賀米の有利販売が行われる。安全安心な伊賀米が安定供給される。	
根拠法令・要綱等	団 thể規約	
開始年度 平成	年度	関連事業
終了年度 平成	年度	
H22 事業 内容	伊賀米振興協議会並びに三重県米麦協会の活動経費を負担。 当該支援団体の活動を通して、伊賀地域における稲作栽培の技術向上および米の品質向上を図り、同時に経済情勢、需給動向に対応した計画的生産販売を行うことと、安定した生産販売体制を構築する。 また、「伊賀米」ブランドの普及、販売拡大に努める。	
社会情勢 の変化等	人口減少や高齢化の進行で、国全体の米消費量が年々減少している。また、低価格米を好む消費者が増えて、伊賀米の価格も下落してきている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	
3 年間運営費	
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標	実績	目標	実績
	振興協議会の開催	回	8	8	10	10
	研修会等の実施	回	8	8	12	
			目標	実績	目標	実績
			9	9	6	6

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
				目標	実績	目標	実績
	生産調整目標の達成率	100%を超える達成率で需給調整し、三重県他地域の米よりも単価を有利にする	%	100	109	100	100
	伊賀米の集荷(販売)量	伊賀米のJA集荷量をもって販売指標とする。	袋	350,000	320,801	330,000	330,000
				目標	実績	目標	実績
				320,801	330,260		

投入 コスト	直接事業費計 (A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		2,629	2,629	2,629	2,629
Aの 財源 内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,629	2,629	2,629	2,629
	事業投入人件費 (B)	0.1 人	720 人	0.1 人	720 人
	フルコスト(A)+(B)	3,349	3,349	3,349	3,349

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活をおむううえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
達成度	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
効率性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
達成度	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効率性	予算の繰越の有無	無
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効率性	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
効率性	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	生産・需要両面の事業者などからの意見聴取を平成22年度に行う。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度 の取組 状況	協議会の事業自体は計画どおり進んだ。米の出荷数量は大幅に増加した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	服部 智秀
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】
現時点における課題、その他	協議会の運営について伊賀市の意見や要望が多く反映されるよう努める。
	首都圏での販促活動が手薄である。コシヒカリ以外の伊賀米ブランドを確立すること。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	本年度、伊賀米オリジナルの東京キャンペーンを実施する。